

屋慶名地区の皆さんと共に、浄化剤散布、および三角干潟モニタリング調査を実施しました。

晴天に恵まれた令和3年10月2日に、屋慶名地区の皆さんとともに、浄化剤散布、および三角干潟モニタリング調査を実施しました。

開始にあたって、森根自治会長から挨拶をいただきました。



作業実施前の三角干潟の状況です。浄化剤散布範囲に目印の三角コーンを設置しています。



① 浄化剤散布

浄化剤を散布することにより、干潟の環境を改善する効果が期待できます。

皆さんで手分けして、まんべんなく干潟に散布しました。





予定していた範囲に散布することができました。
今後の効果が楽しみです。



② 三角干潟モニタリング調査

モニタリング調査は、パックテスト、臭気調査、および生物調査を行いました。

調査は、排水路からの排水が滞留し礫が広がる位置(地点①)と若干沖合の砂地地点(地点②)で行いました。



(1) パックテスト

パックテストは、干潟の水質・底質の状態を把握するために行います。

まず、調査員からパックテストの使用方法を習います。



実際に、調査を実施してみます。



干潟の現状や調査結果等について、ディスカッションしました。



(2)臭気調査

臭気調査は、自分の鼻で感じ取った匂いの程度を8段階評価にて調査します。

当日は、地点①では「臭気強度4：強いにおい」となりました。

臭気結果を野帳に書き込みます。



(3)生物調査

生物調査は、スコップ等で砂を掘り、中にある生物を確認します。



採取できた生物です。二枚貝、カニ類等が採取できました。



確認された主な生物です。

地点②の砂地帯においては比較的多数の生物が確認できました。



ミナミコメツキガニ



ヒメシオマネキ



アラスジケマンガイ



ホシムシ類



スナモグリ類



ウミニナ類

(4)調査結果

調査結果を下表に示します。結果の内、特に環境が悪いと判断される結果について赤字で示しました。各調査項目とも、地点①において環境が悪化している状況が確認されました。

水質では、硫化物と全窒素が特に高い値を示しました。硫化物は底質が無酸素状態になり有害な硫化水素が発生していることを示し、生息生物に悪影響を与えるとともに、悪臭の元になります。全窒素は、汚濁物質の量を表し、生活排水や畜舎からの汚濁した水が海域に流れていることを表します。

臭気調査では、地点①において「4：強いにおい」が確認されました。主な匂いの元は排水と硫化水素であると考えられます。

生物調査では、少し沖合の地点②では二枚貝やカニ類等多数の生物が確認されましたが、地点①では何も確認することができませんでした。やはり地点①では環境の悪化が著しいと考えられます。

今後、浄化剤散布等の様々な対策を通じ、地点①においても環境が回復していくことを目指したいと思います。

表：モニタリング調査結果(令和3年10月2日実施)

		地点① (排水路からの排水が滞留し礫が広がる位置)		地点② (若干沖合の砂地)	
水質	COD(化学的酸素要求量)	6	mg/L	5	mg/L
	pH	8.0	-	8.0	-
	硫化物	5以上	mg/L	0.1	mg/L
	DO(溶存酸素)	9	mg/L	1	mg/L
	リン酸・リン酸態リン	0.2	mg/L	0.2	mg/L
	全窒素	10	mg/L	0	mg/L
臭気調査		4 (強いにおい)		3.5 (3(容易ににおいを感じる)と4(強いにおい)の中間)	
生物	出現なし		種名	個体数	
			アラスジケマンガイ(二枚貝)	5	
			ヌノメイチョウシラトリ(二枚貝)	1	
			ウミニナ類(巻貝類)	39	
			ミナミコメツキガニ(カニ類)	30	
			ヒメシオマネキ(カニ類)	3	
			フタハオサガニ(カニ類)	3	
			ツメナガヨコバサミ(ヤドカリ類)	3	
			スナモグリ類(甲殻類)	3	
ホシムシ類(星口動物)	1				

皆さん、暑い中での作業、大変お疲れ様でした。

モニタリングは、冬季での実施も予定していますので、引き続きご参加のほどよろしくお願いたします。